

働く女性のためのメディカル・ケア

職業生活を通じての女性の健康管理 に関する調査研究

【研究 1-A】 月経関連障害が働く女性の QWL に及ぼす影響に関する調査研究

【研究 1-B】 更年期障害が働く女性の QWL に及ぼす影響に関する調査研究

主任研究者 矢本 希夫

— 研究者一覧 —

独立行政法人 労働者健康福祉機構 和歌山労災病院 働く女性健康研究センター長	矢本 希夫
独立行政法人 労働者健康福祉機構 大阪労災病院 副院長	山崎 正人
国立国際医療センター 医療生態学研究部長	新保 卓郎
大阪大学大学院 基礎工学研究科	杉本 知之
和歌山大学 システム工学部 教授	中川 優
和歌山大学 システム工学部 助教授	村川 武彦

— 目 次 —

1. 研究目的	2
2. 研究方法	2
3. 倫理上の配慮	3
4. 対象	3
5. 結果	4
① 研究1-A：月経関連障害が働く女性のQWLに及ぼす 影響に関する調査研究	4
② 研究1-B：更年期障害が働く女性のQWLに及ぼす 影響に関する調査研究	9
6. まとめ	14
7. 主な学会・講演会発表	14

1. 研究目的

- 1-A : 月経困難症, 月経前症候群(PMS)の実態を調査・把握し, 勤労女性の QWL(Quality of Working Life)に及ぼす影響について明らかにするとともに, これら疾患に対する治療や教育・指導が, 働く女性のQWLに及ぼす効果を検証し, 対策を立案する。
- 1-B : 更年期障害の診断基準を確定して, 働く女性におけるその頻度を調査し, 働く女性の QWL に及ぼす影響と, ホルモン補充療法などの治療後の QWL への効果について明らかにする。

2. 研究方法

- 1-A : 各労災病院の産婦人科外来受診女性を対象とし, 月経前に認められる精神, 身体症状や月経困難症に関する自記式アンケート調査(調査表1)[※]を行うとともに, Health-related QOL(HQOL)を SF-36(調査表2)[※]を用いて調査する。
月経障害は器質的疾患の除外診断を含め厳密に診断し, 治療法間のHQOLの差を交絡因子を調整しつつ比較検討する。職業生活と疾患と治療法の交互作用があるかどうかを検討する。
- 1-B : 自記式アンケート調査(調査表1)を行うとともに, HQOL を SF-36(調査表 2)を用いて調査する。
- ・ 簡易更年期指数(調査表3)[※]にて, 更年期障害の程度を把握し, SF-36 による QOL を評価。
 - ・ 更年期障害の定義と診断法を確立する資料を統計学的に解析し, 更年期障害の診断に関するガイドラインを作成し, その普及に努める。

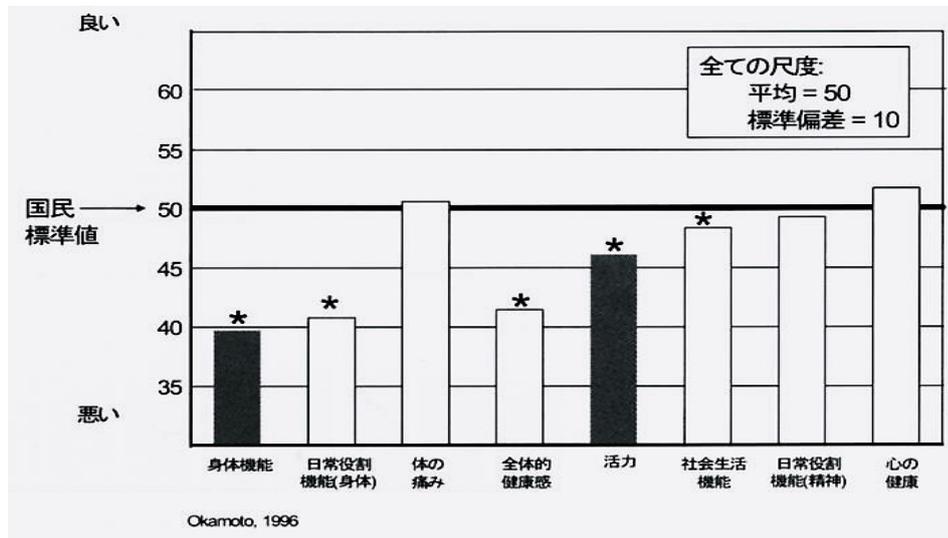
SF-36 v2TM 日本語版とは

- Medical Outcomes Study (MOS) 36 - Item Short - Form Health Survey (SF - 36 と略)。
- 医療科学や健康関連 Quality of Life (HR - QOL) に応用。
- SF - 36 は, 一般的な人々と慢性症状を持つ患者を比べる共通の”物差し”を提供すべく開発された。
- 医療評価の新しい指標として, 住民や患者の視点に立脚した主観的なアウトカムを指標とする。

SF - 36 v2TMは「国際バージョン」

1. わずか 36 項目の健康を測定する質問紙にて, 患者と健常者の機能状態の違いを捉える。
2. 自己記入式でもうまくいったという実績がある。
3. 回答者の負担を軽減するように考えられ, 使いやすさが求められる。
4. 日本では 2002 年に全国調査の結果から算出された国民標準値を使用し, 比較する。
5. 1 点は標準偏差の 10 分の 1 である。

国民標準値に基づくスコアリングによる喘息患者の SF - 36 プロフィール



3. 倫理上の配慮

(1) 被験者の人権擁護への配慮

- ① 各病院の名のもとに説明を行い、その説明文の下に、サイン(個人名の非使用)欄を設けて、その記入をもって、同意を得た証拠とした上で、実施する。
- ② アンケート用紙は、研究担当者が情報保護の観点から、回答記入済用紙のみを封筒に入れて、主任研究者の施設(和歌山労災病院)に送付し、そこでコンピューターに読み込み解析用データ化することによって、回収時における個人情報秘匿する。
- ③ 各労災病院外来における電子フォーマットの直接記入ではなく、紙ベースでの対応とする。
- ④ アンケート調査および血液・唾液などの検体の採取を行う場合には、各病院においても倫理委員会の承認を受けた上で実施する。
- ⑤ 本研究において最終的に集計されたデータについて、個人情報プライバシーを守り、本研究以外には用いず漏洩の無いようセキュリティーに万全の配慮をする。
- ⑥ 本医学研究実施前に、独立行政法人労働者健康福祉機構において組織する医学研究倫理審査委員会の承認を受けるとともに、症例蒐集を行う各病院において倫理委員会の承認を受ける。

(2) 被験者(あるいはその代理人)に理解を求め同意を得る方法

同意は口頭説明と文書でもって行う。

(3) 研究協力の任意性と撤回の自由についての配慮

研究への協力は任意であり、協力しない場合にも何らの不利益が生じないこと、また研究協力に一旦同意された場合でも、不利益を受けることなく同意を取り消すことができることを口頭説明と文書でもって行う。

4. 対象

労災病院 14 施設(釧路・東北・千葉・東京・関東・大阪・関西・岡山・中国・山口・香川・愛媛・熊本・和歌山)において、2005年8月～2007年3月に産婦人科外来を受診した女性 2300人。

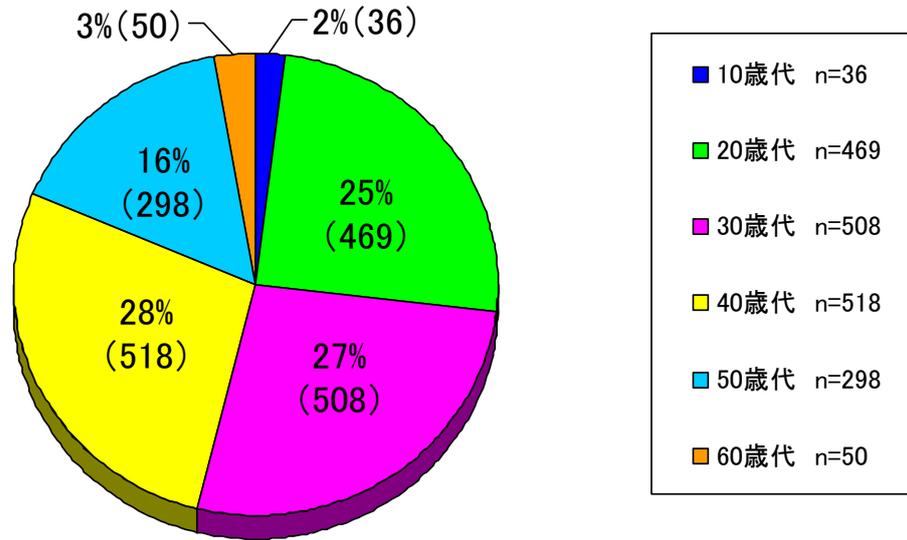
※ 年齢 15 歳～65 歳の初診患者で、妊婦症例、産婦人科関連(経口避妊薬、性ホルモン剤、GnRH アゴニスト等)の投与中の患者、子宮がん、卵巣がんの進行症例は除いた。

5. 結果

アンケート配布数 : 2,300 件
 回収件数及び回収率 : 産婦人科外来新患者用アンケート 2045 件/2300 件 (88.9%)
 SF-36 (あなたの健康について) アンケート 2041 件/2300 件 (88.7%)

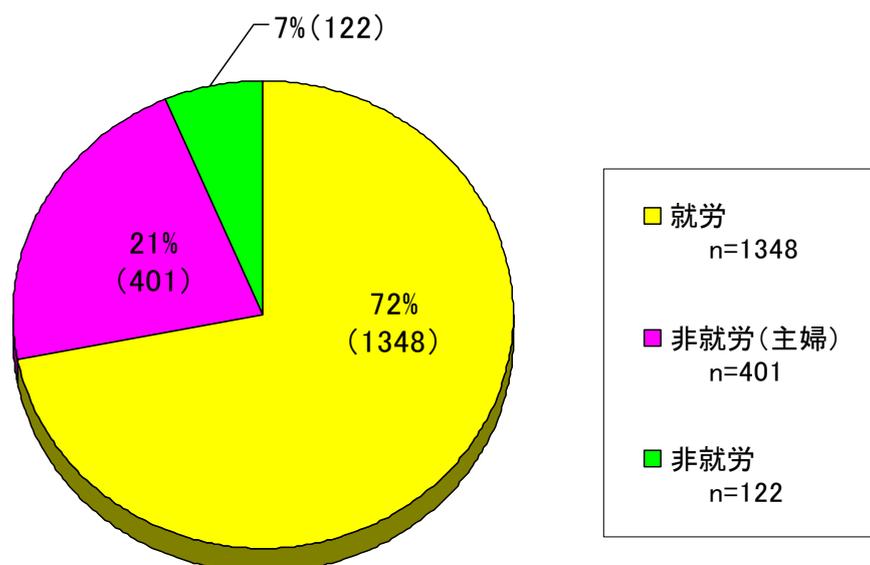
① 研究 1-A: 月経関連障害が働く女性の QWL に及ぼす影響に関する調査研究

【年代別 アンケート調査状況 n=1879】



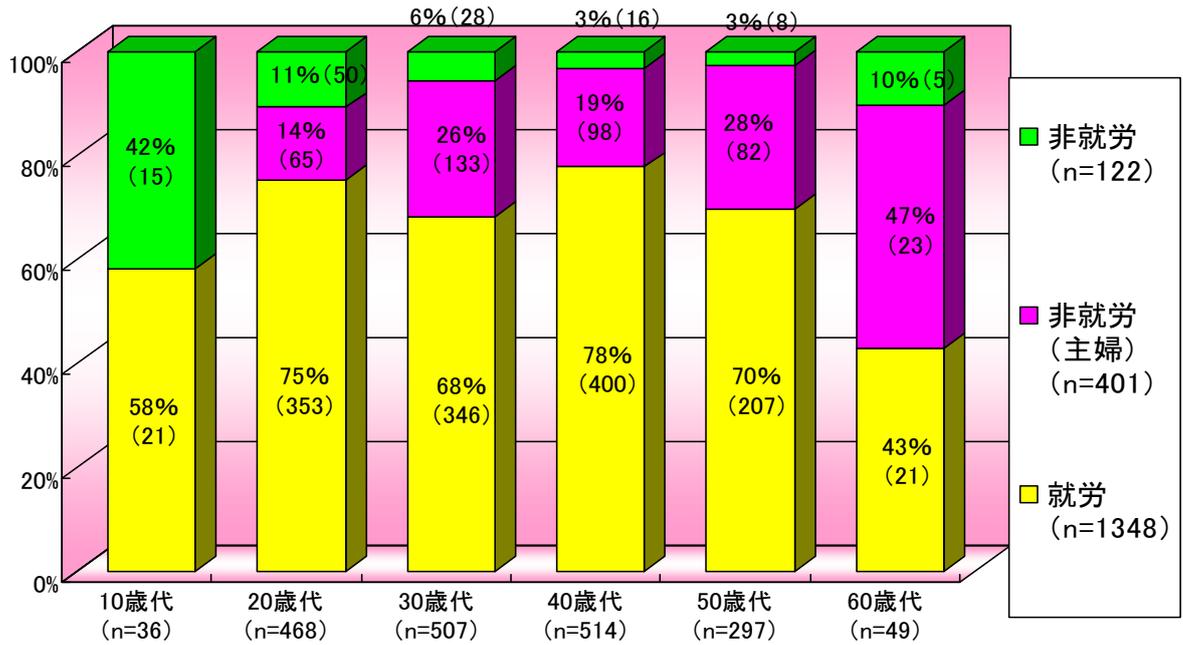
※ 全国各労災病院産婦人科外来受診の各年代の女性にアンケートの協力を依頼し、回答を得た。

【就労状況別 アンケート調査状況 n=1879】



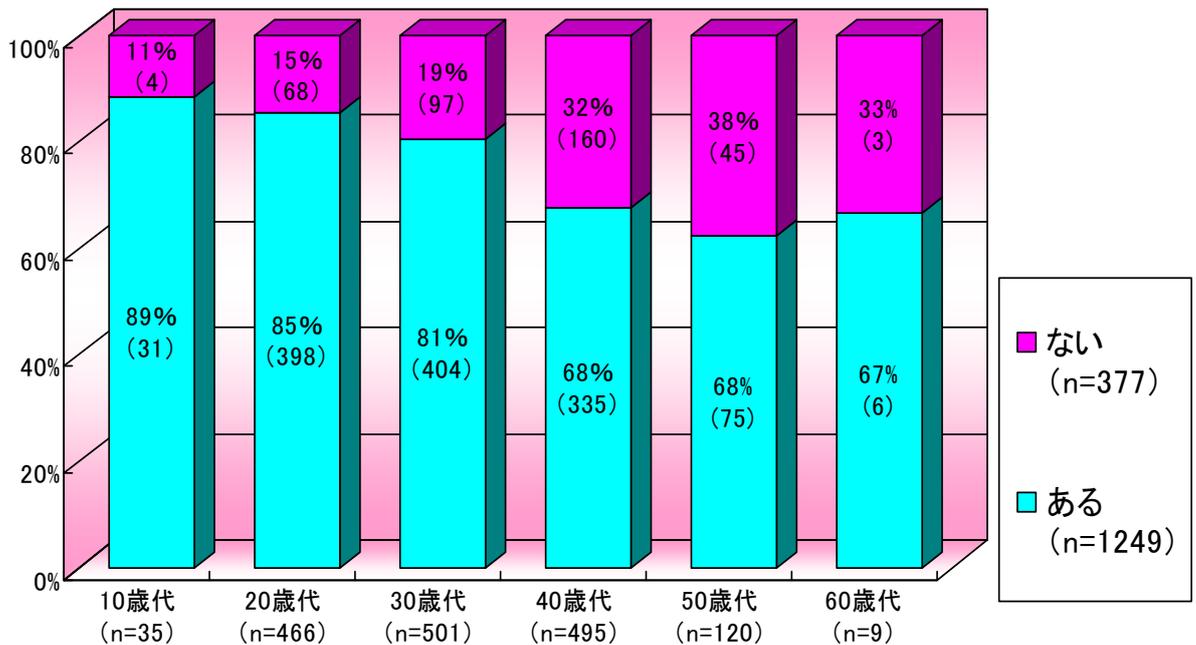
※ 15歳～60歳の女性の72%がパート勤務を含め就労していることが示された。

【 年代別 就労状況 n=1871 】



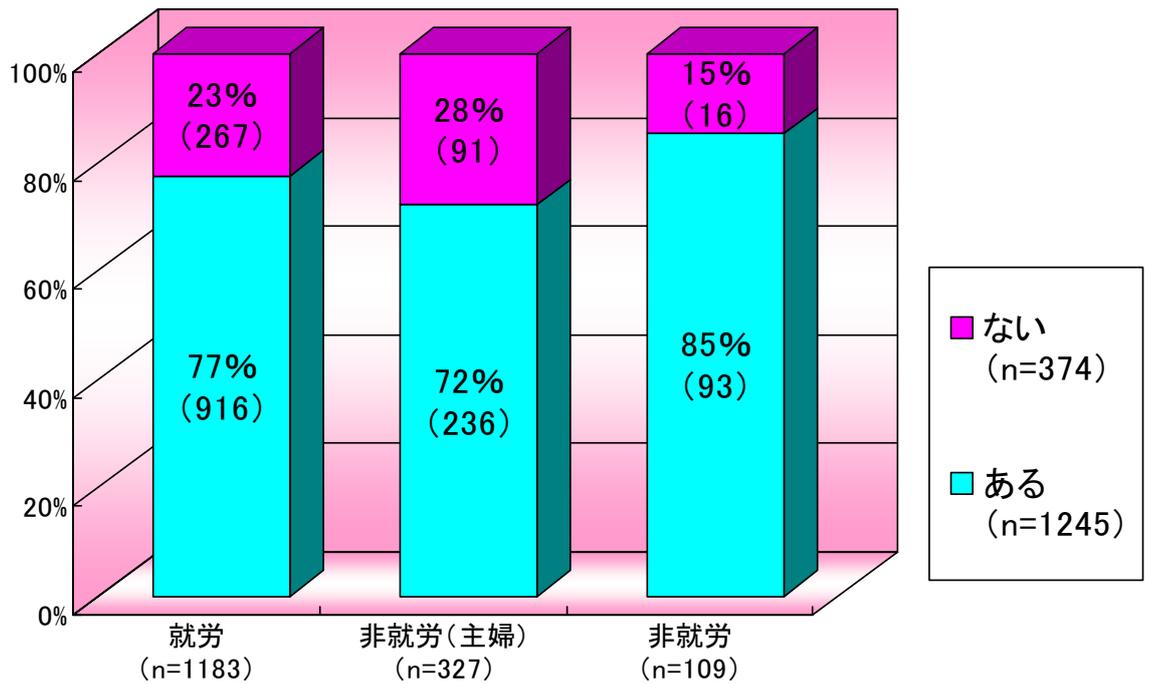
※ 20歳代の女性の就業率が75%であるのに対し、30歳代になると68%に減少し、40歳代に再び78%と増加し、50歳代は70%、60歳代は42%と女性の就労率はM字カーブを描くことが示された。
わが国では、出産・育児支援の必要性が喫緊の政策課題であることが再確認された。

【 年代別 月経痛の有無について n=1626 】



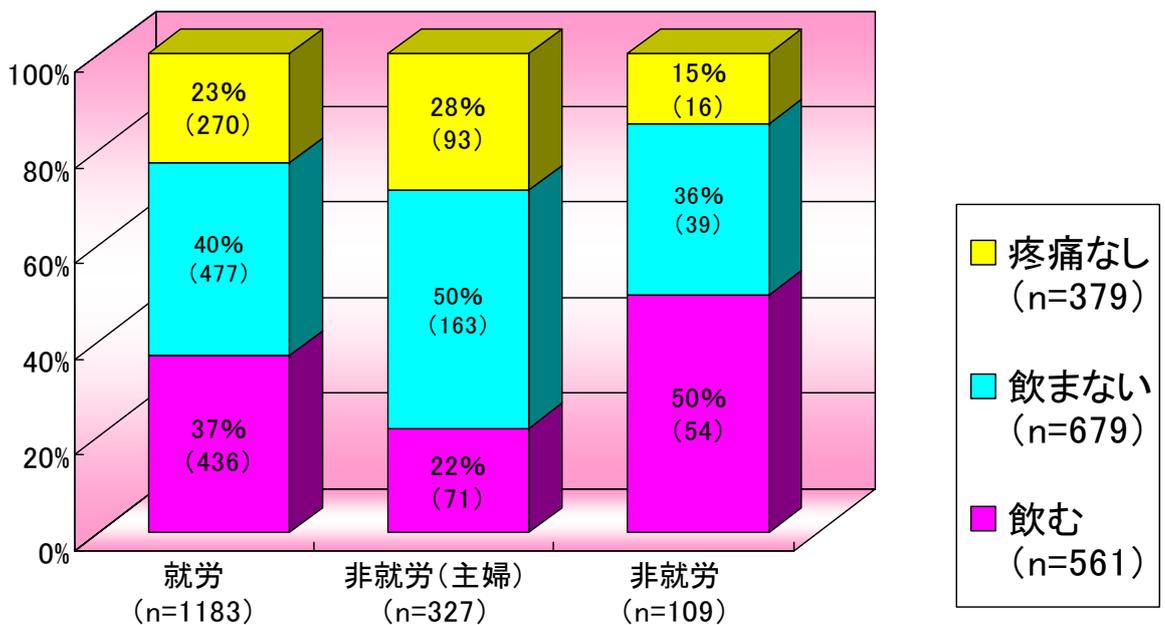
※ 20歳代85%、30歳代81%と多くの女性に月経痛があることが示された。

【 就労状況別 月経痛の有無について n=1619 】



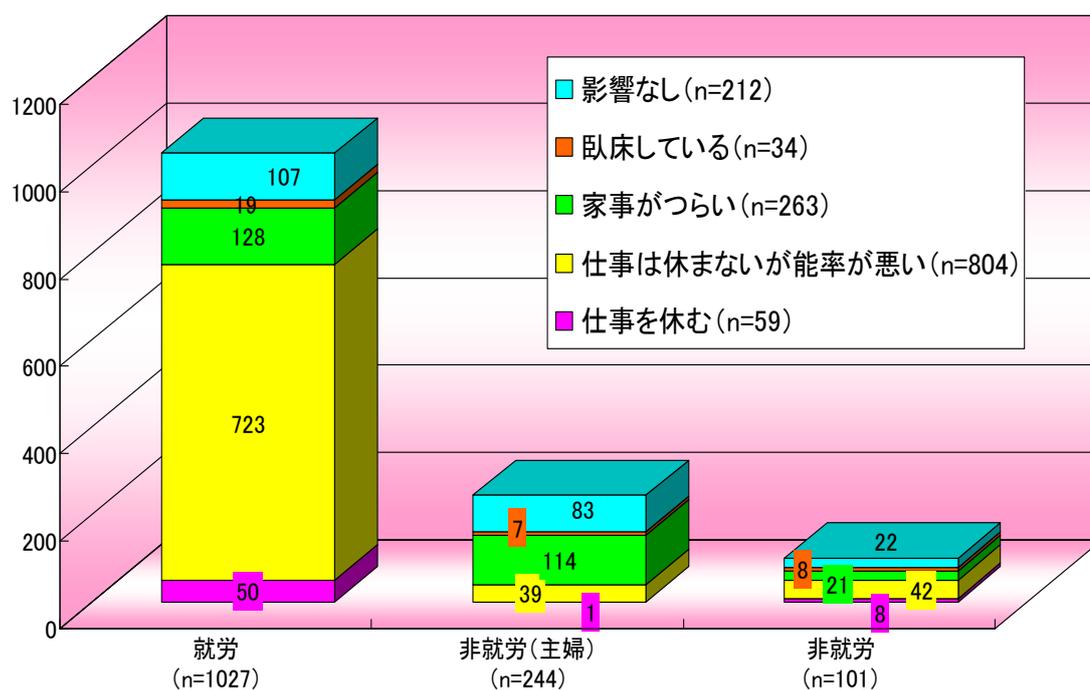
※ 就労女性の77%、非就労女性(主婦)の72%が月経痛(下腹部痛・腰痛)があることが示された。

【 就労状況別 月経時に鎮痛剤を服用しますか? N=1619 】



※ 鎮痛剤を服用するほど強い月経痛は主婦では22%であったのに対し、就労女性では37%であり、強い月経痛があることが示された。

【 就労状況別 月経痛の仕事・家事への影響について n=1372(複数回答) 】



※ 月経痛の仕事・家事への影響の検討では多くの就労女性が「仕事は休まないが能率が悪い」と答えていた。

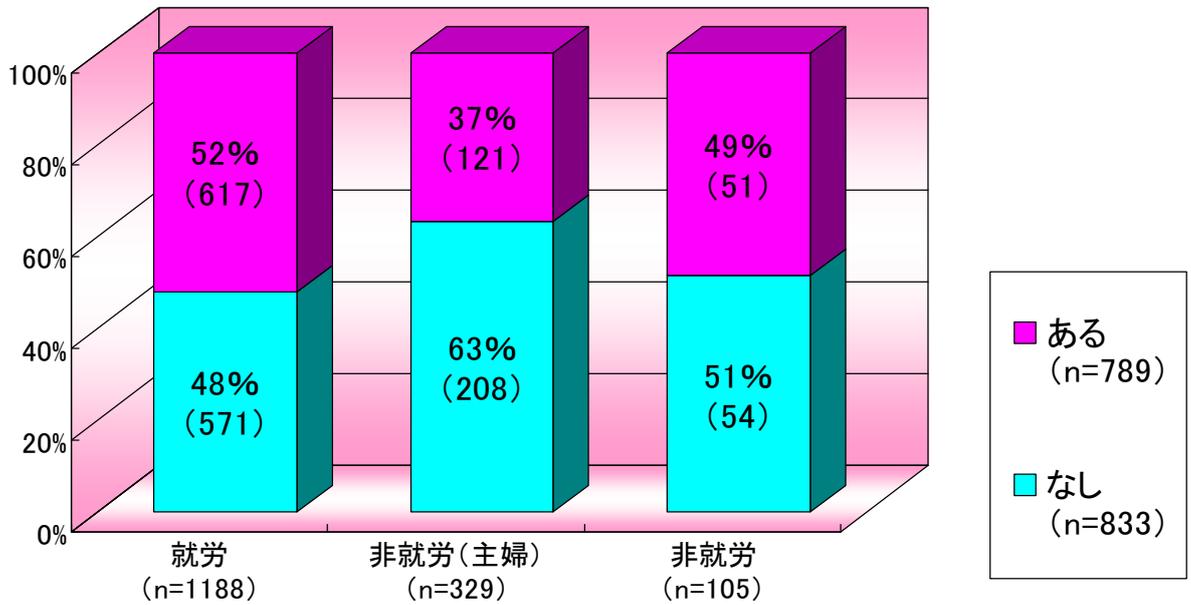
【 月経痛の QWL に及ぼす影響 (SF-36v2™) 】

調査項目		月経痛あり	月経痛なし
身体機能	Physical Functioning (PF)	51.8±8.2	51.8±8.5
日常役割機能 (身体)	Role-Physical (RP)	48.3±11.1	49.6±11.2
体の痛み	Bodily Pain (BP)	※45.3±11.3	49.7±10.7
全体的健康感	General Health Perception (GH)	※46.7±9.5	48.7±9.7
活力	Vitality (VT)	49.5±10.3	48.9±10.8
社会生活機能	Social Functioning (SF)	※47.3±11.2	49.2±11.1
日常役割機能 (精神)	Role-Functioning (RE)	※48.7±10.7	50.0±10.3
心の健康	Mental Health (MH)	※46.1±10.5	48.7±10.8

(※ 有意差あり P<0.05)

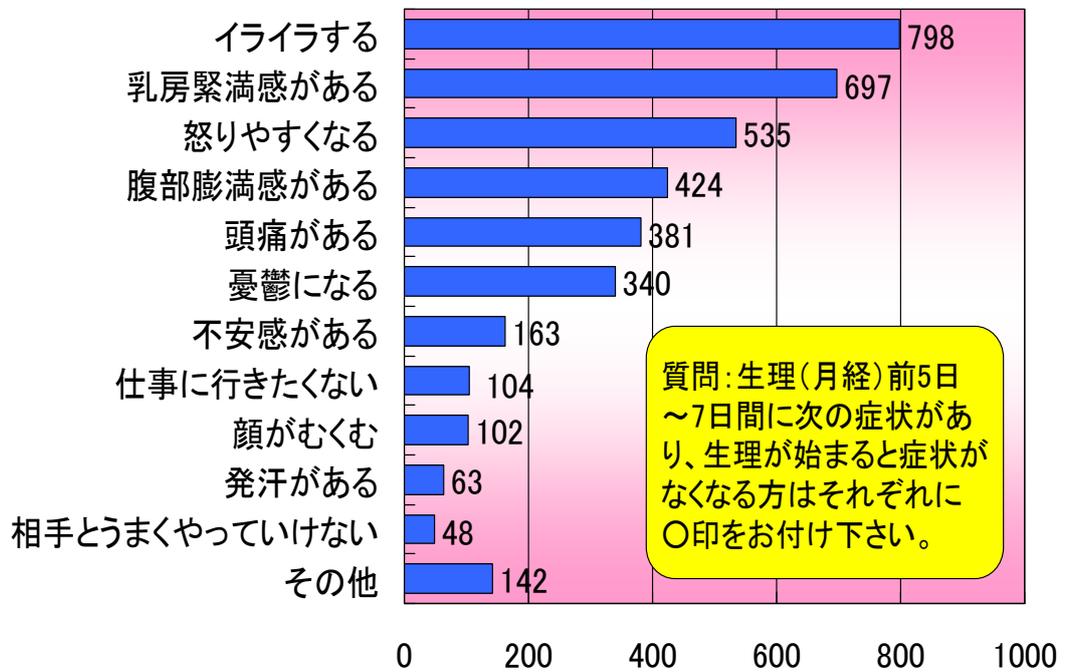
※ 月経痛は、体の痛み、全体的健康感、社会生活機能、日常役割機能 (精神)、心の健康の5項目で有意に QOL を低下させていることが示された。

【 就労状況別 月経時以外にも下腹部通・腰痛はありますか？ n=1622 】



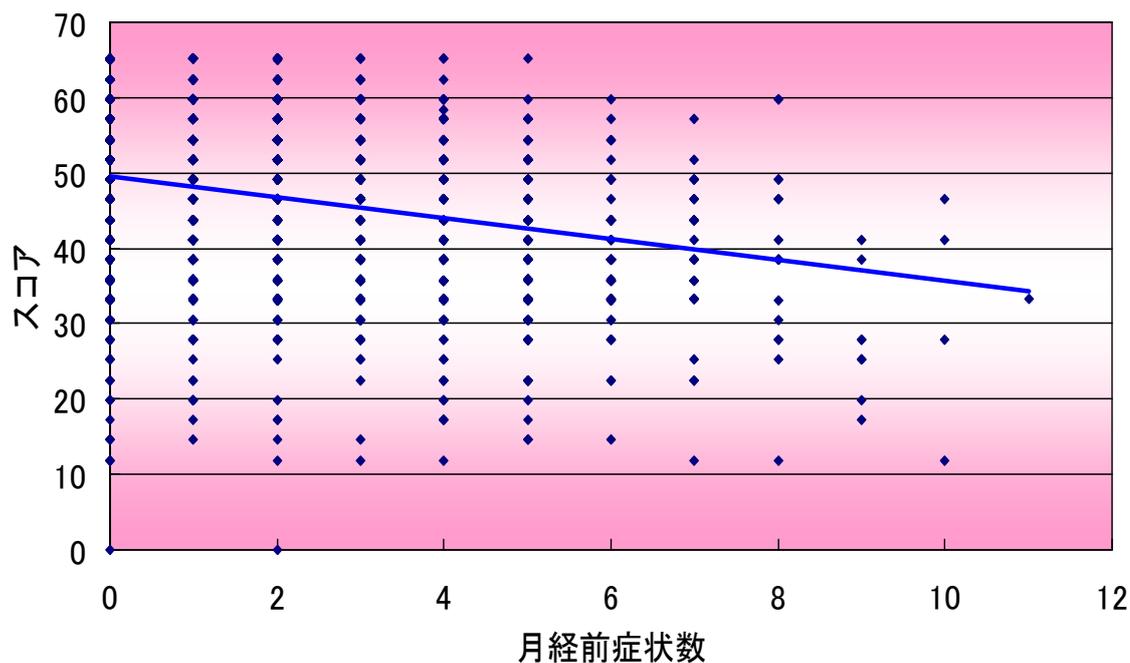
※ 就労女性の52%は月経時以外にも、下腹部痛・腰痛があることが示された。

【 月経前症候群の各症状 n=3797(複数回答) 】



※ 月経前症候群の症状では、イライラする、乳房緊満感がある、怒りやすくなる、腹部膨満感がある等の訴えが多いことが示された。

【 心の健康 (MH) 】



※ 月経前症候群と QOL の相関の検討では、日常役割機能 (身体)、身体の痛み、全体的健康感、活力、社会生活機能、日常役割機能 (精神)、心の健康において有意の負の相関があることが示された。

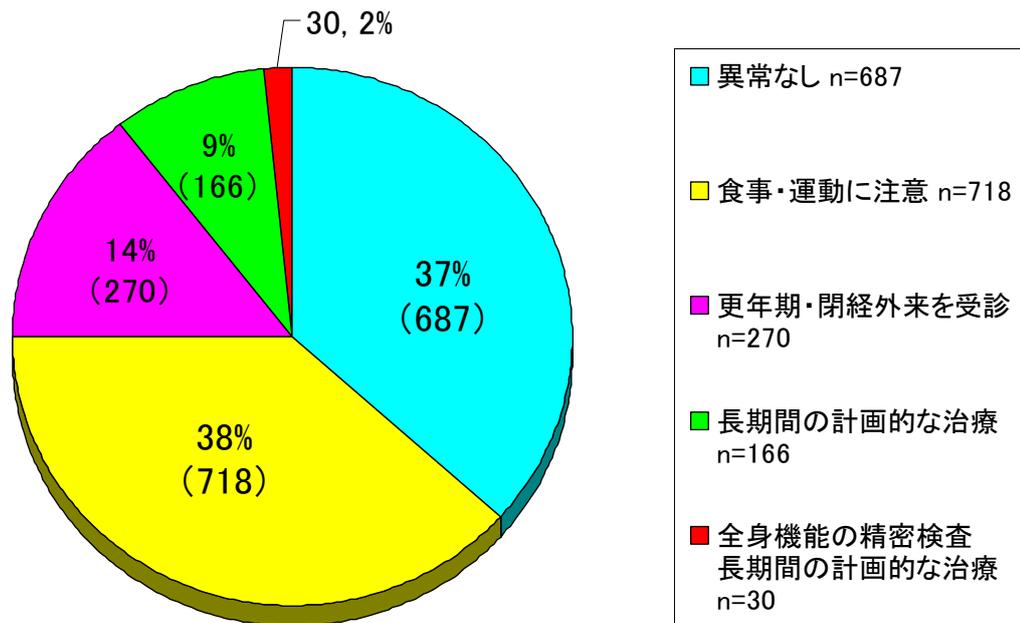
② 研究 1-B: 更年期障害が働く女性の QWL に及ぼす影響に関する調査研究

【 簡略更年期指数評価について(10 項目の質問による採点法) 】

	症状の程度				点 数
	強	中	弱	なし	
① 顔がほてる	10	6	3	0	
② 汗をかきやすい	10	6	3	0	
③ 腰や手足が冷えやすい	14	9	5	0	
④ 息切れ、動悸がする	12	8	4	0	
⑤ 寝つきが悪い、または眠りが浅い	14	9	5	0	
⑥ 怒りやすく、すぐイライラする	12	8	4	0	
⑦ くよくよしたり、憂鬱になることがある	7	5	3	0	
⑧ 頭痛・めまい・吐き気がよくある	7	5	3	0	
⑨ 疲れやすい	7	4	2	0	
⑩ 肩こり・腰痛・手足の痛みがある	7	5	3	0	
【 採点方法 】 <ul style="list-style-type: none"> 0～25 点： 異常なし 26～50 点： 食事・運動に注意 51～65 点： 更年期・閉経外来を受診 66～80 点： 長期間の計画的な治療 81 点以上： 全身機能の精密検査・長期間の計画的な治療 					

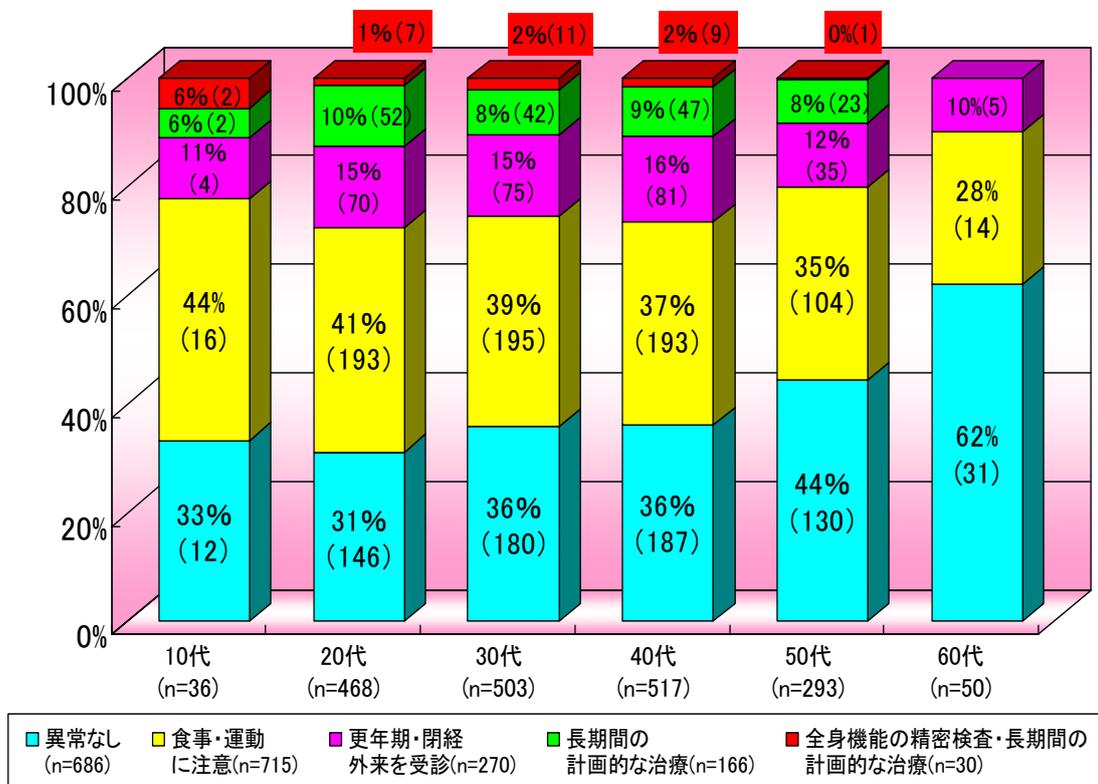
※ わが国において、広く普及している簡略更年期指数評価表により調査した。

【 更年期指数評価別 アンケート調査状況 n=1871 】



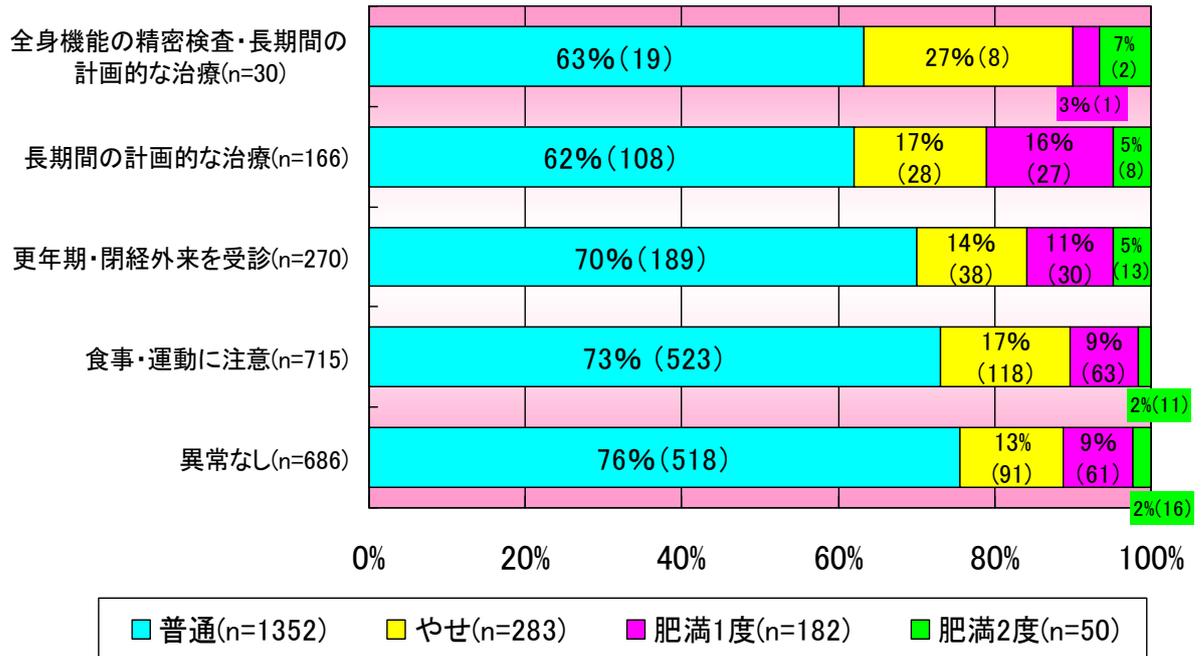
※ 14%に更年期・閉経外来を受診、8%に長期間の計画的な治療が必要であることが示された。

【 年代別・更年期指数評価 n=1867 】



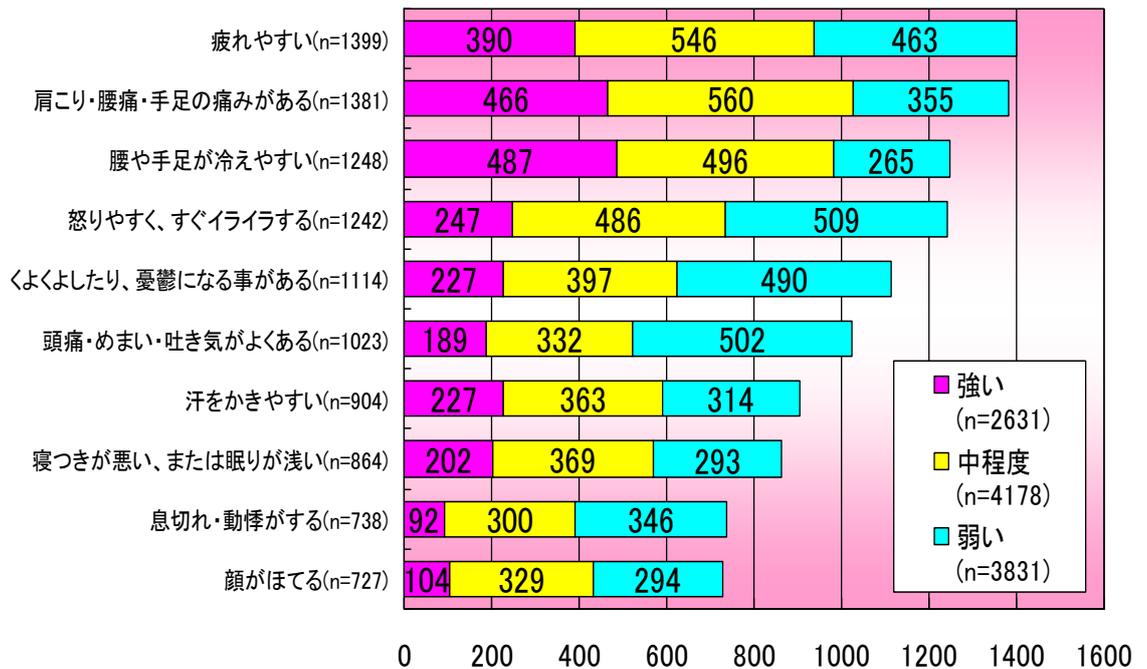
※ 20歳代、30歳代の女性にも更年期障害様症状があることが示された。

【 更年期指数評価別・BMI 評価状況 n=1867 】



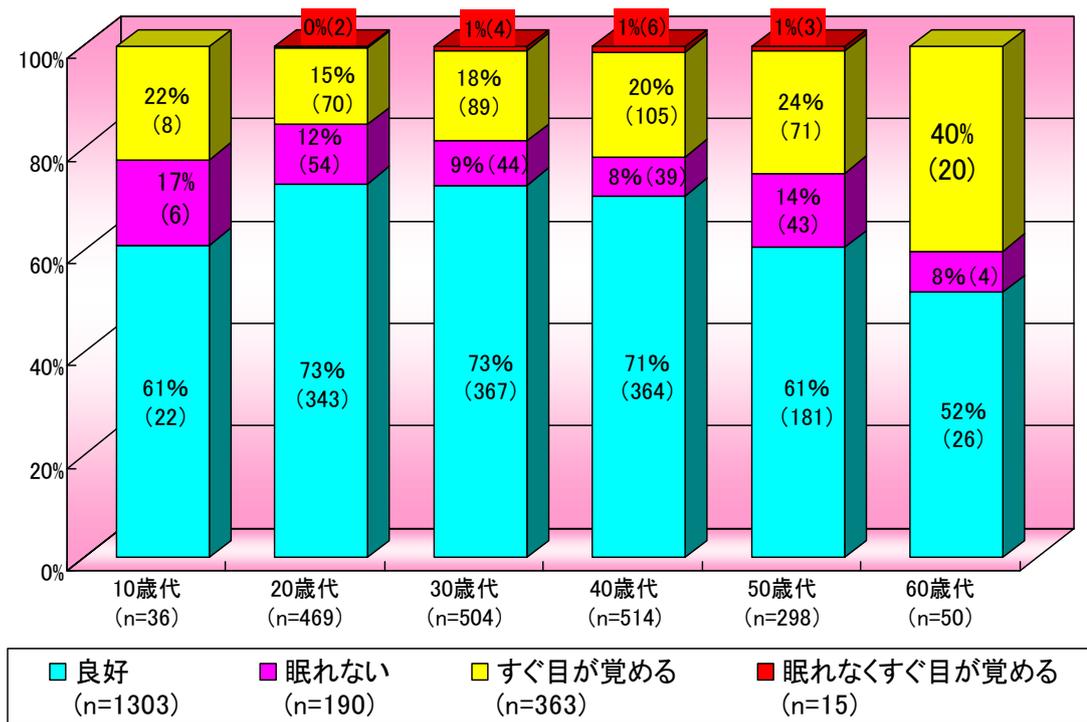
※ やせている女性の方が、更年期障害が強くなる可能性が示された。

【 更年期症状別 アンケート調査状況 n=10640(複数回答) 】



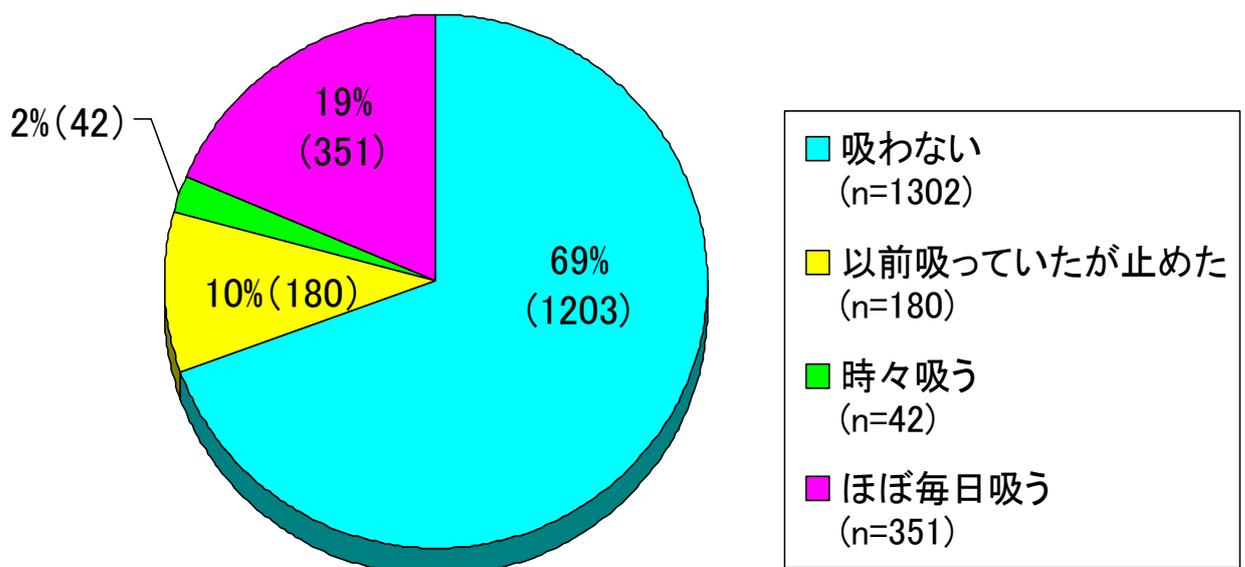
※ 「疲れやすい」、「肩こり・腰痛・手足の痛みがある」、「腰や手足が冷えやすい」の症状が多いことが示された。

【 年代別・睡眠状態について n=1871 】



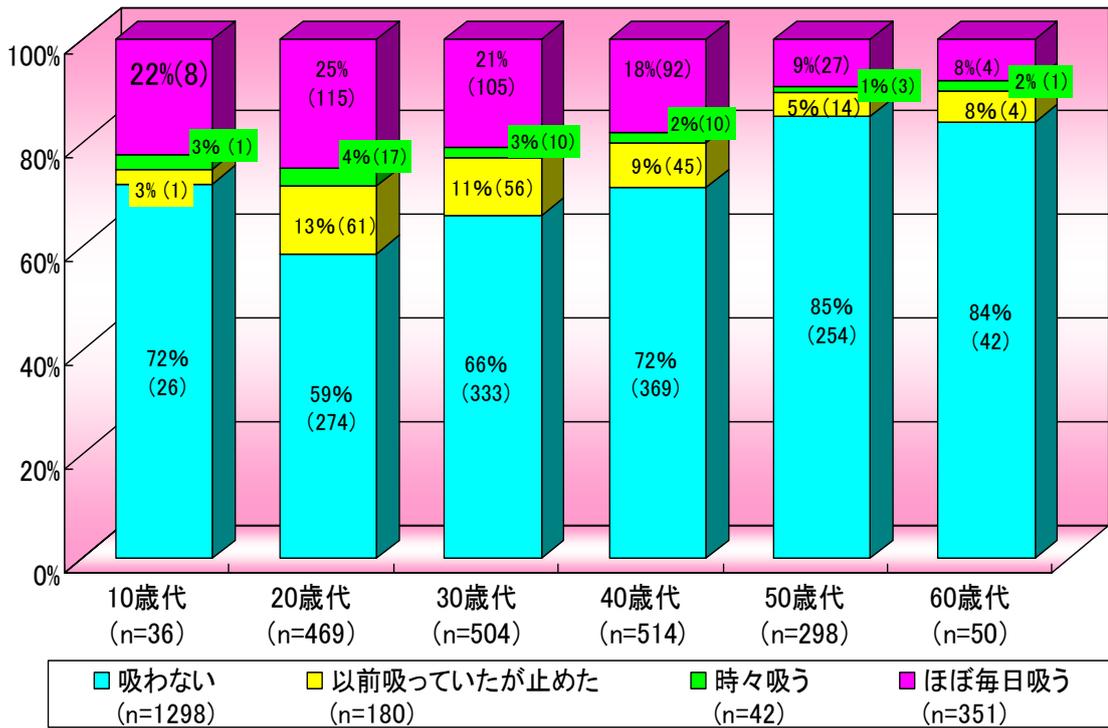
※ 50歳代、60歳代の女性には不眠を訴えることが多いことが示された。

【 喫煙状況別 アンケート調査状況 n=1875 】



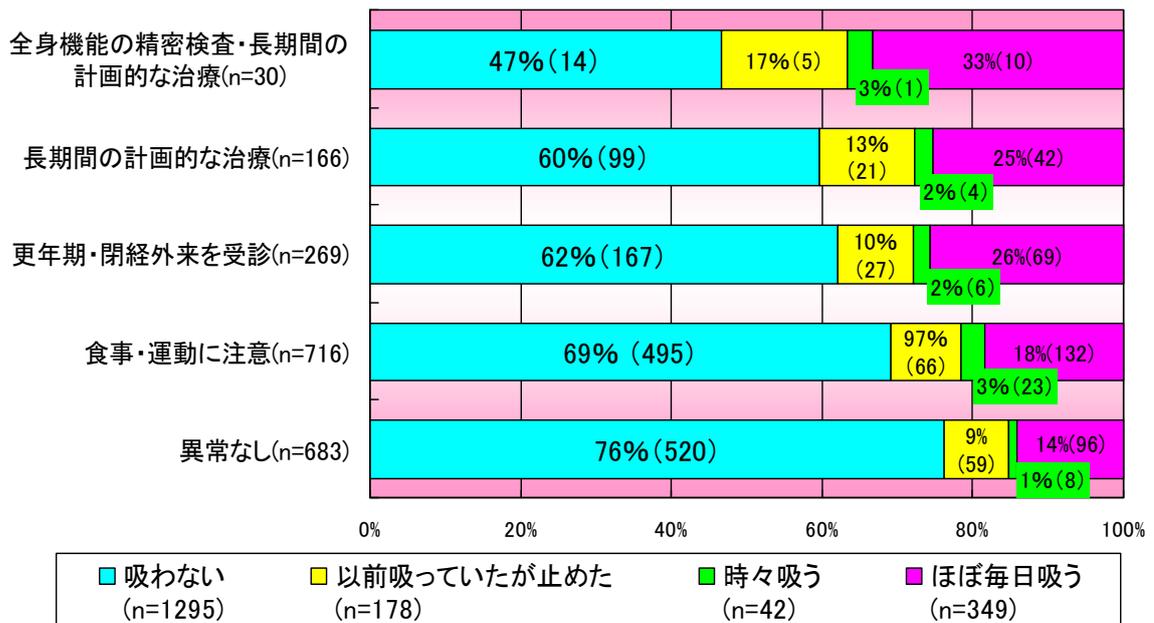
※ 約20%の女性が喫煙していることが示された。

【 年代別 喫煙状況 n=1871 】



※ 20歳代、30歳代の女性に喫煙していることが多いことが示された。

【 更年期指数評価別 喫煙状況 n=1864 】



※ 喫煙している女性に更年期障害が強くなることが示された。

【 更年期障害の QWL に及ぼす影響(SF—36v2™) 】

調 査 項 目		更年期障害あり	更年期障害なし
身体機能	Physical Functioning (PF)	48.9±8.4	52.2±7.9
日常役割機能 (身体)	Role-Physical (RP)	44.0±12.4	49.7±10.6
体の痛み	Bodily Pain (BP)	41.0±10.9	48.1±10.8
全体的健康感	General Health Perception (GH)	41.8±10.3	48.8±9.2
活力	Vitality (VT)	40.4±10.9	49.0±9.6
社会生活機能	Social Functioning (SF)	42.8±11.3	49.1±10.4
日常役割機能 (精神)	Role-Functioning (RE)	43.7±11.0	50.5±9.6
心の健康	Mental Health (MH)	41.1±11.0	48.7±10.0

(※有意差あり P<0.05)

※ 更年期障害は、すべての項目で有意にQOLを低下させることが示された。

6. まとめ

今回の検討により月経関連障害、更年期障害が女性の健康関連 QOL を有意に低下させている実態が示され、月経関連障害、更年期障害に対する相談、治療や対策が必要であることが示唆された。

7. 主な学会発表及び講演会

《 学会発表 》

- 第 53 回 日本職業・災害医学会学術大会 (2005. 11.23 大阪)
「女性クリニックの展望 月経関連障害及び更年期障害が働く女性の QWL に及ぼす影響」
- 第 54 回 日本職業・災害医学会学術大会 (2006. 11.9 横浜)
「働く女性のためのメディカル・ケア 勤労女性の月経関連障害について」
- 第 55 回 日本職業・災害医学会学術大会 (2007. 11.2 名古屋)
「働く女性のためのメディカル・ケア 職業生活を通じての女性の健康管理に関する調査研究」
- 第 56 回 日本職業・災害医学会学術大会 (2008. 11.7 東京)
「働く女性のためのメディカル・ケア 更年期障害の実態調査とその QWL に及ぼす影響」

《 講演会 》

- 2005.11.26 那賀郡、伊都郡産婦人科医会研修会 和歌山
「月経関連障害への対応」
- 2006.3.11 和歌山県産婦人科医会 紀南地区学術講演会 和歌山
「女性医療 Up to Date 」

- 2006.10.28 産業医研修会「母性健康管理研修会」 和歌山
「職場における妊産婦の健康管理と産業医等産業保健スタッフの役割」
- 2006.11.16 さわやかミドル館 和歌山
「更年期障害について」
- 2007.3.9 健康セミナー講演 和歌山
「めざそう！さわやかミドル」
- 2007.10.4 産業医研修会「母性健康管理研修会」 和歌山
「職場における妊産婦の健康管理と産業医等産業保健スタッフの役割」
- 2007.12.6 産業医研修会「母性健康管理研修会」 兵庫
「職場における妊産婦の健康管理と産業医等産業保健スタッフの役割」
- 2008.1.24 2007‘ RIC インフォメーションセミナー 秋田
「働く女性のためのメディカル・ケア」
- 2008.7.5 第5回 和歌山県母性衛生学会総会・学術集会 和歌山
「女性の健康支援 働く女性のメディカル・ケア」
- 2008.10.2 産業医研修会「母性健康管理研修会」 和歌山
「職場における妊産婦の健康管理と産業医等産業保健スタッフの役割」
- 2008.10.18 第46回 和歌山県産婦人科医会研修会 和歌山
「女性の健康力とその支援」
- 2008.10.30 産業医研修会「母性健康管理研修会」 大阪
「職場における妊産婦の健康管理と産業医等産業保健スタッフの役割」
- 2008.12.4 産業医研修会「母性健康管理研修会」 奈良
「職場における妊産婦の健康管理と産業医等産業保健スタッフの役割」